

第60回川崎市介護保険運営協議会及び会議録

1 日時 令和8年3月19日(木)午前9時00分～11時45分

2 場所 本庁舎 304・305・306会議室

3 出席者

(1) 介護保険運営協議会委員(15名)

竹内会長、遠藤委員、志村委員、出口委員、平山委員、八木委員、片山委員、天童委員、星野委員、水谷委員、森本委員、邊見委員、湯本委員、三津間委員、佐野委員

(欠席)

石山委員、小野田副会長、寺澤委員、佐川委員、篠田委員

(2) 事務局

長寿社会部

下浦部長

高齢者事業推進課

菊川課長、村上担当課長、竹田課長補佐

高齢者在宅サービス課

芦川課長

介護保険課

平野課長、井上係長、中澤係長、福川係長、野溝係長

地域ケア推進室

菅野室長、永井担当課長、竹田担当課長、田中担当係長、中村担当係長

保健医療政策部健康増進担当 大西課長

4 傍聴者 0名

5 議題

(1) 地域密着型サービス等部会の開催結果について

(2) 第9期川崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

「かわさきいきいき長寿プラン」の進捗管理について

(3) 令和7年度川崎市高齢者実態調査の結果について

(4) 第10期川崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の検討体制等について

(5) その他(川崎市の介護保険の実態等)

6 主な発言内容

冒頭

平野課長	<p>協議会の開催要件について、委員20名中現在15名の出席が確認され、開催要件である委員定数の半数を超えた出席がありますので開催要件を満たしていることを報告いたします。</p> <p>また、今回の議題の中に非公開事項はなく公表の取扱いといたしますので、よろしくお願いいたします。</p>
------	--

(1) 地域密着型サービス等部会の開催結果について

	質疑応答なし
--	--------

(2) 第9期川崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画「かわさきいきいき長寿プラン」の進捗管理について

会長	第9期計画の成果を踏まえて第10期計画で根本的に変更するところはあるのか伺いたい。
菊川課長	第10期計画については国からの指針が改めて示され、また、実態調査の結果などで新たな課題が見えてくるので、それらを踏まえて作成します。
会長	<p>介護保険を利用していない人が増えており4割に達しようとしています。介護認定を受けてケアマネに紹介されたサービスを1～2回利用してやめてしまう例が多い。介護保険を論議するうえで重要な問題であるが、第10期に向けて申し送る雰囲気でないようです。介護のための離職者も年々増加しており、川崎市内で年間3千人と聞いたことがあります。親の介護を若くから行い、仕事もできずに多くに時間を費やす人が少なからずいる。介護離職を防ぐ仕組み作りが必要と考えます。</p> <p>ところで、看護系のサービスである看護小規模多機能型居宅介護はきめ細かいサービスを提供しきれていないと感じるが、魅力あるものにしないと成り立たないと思います。看護大学の委員の方は、魅力あるものと感じていますか。</p>

湯本委員	<p>利用する側からすると魅力あるが現場は大変との印象を持ちます。看多機の関係者に聞いたことがあるが、重症度の高い人が宿泊利用等するので、重なり負担が大きい。スタッフの確保が難しい事業所では過酷なシフトを強いられ、サービス提供が定着しないところもあると聞いています。泊り、通い、訪問のサービスを一つの事業所・同じスタッフから受けることができる心強さもあり、増えて欲しいサービスであると個人的には思います。</p>
会長	<p>介護医療院は運営にあたって制度設計上難しいと思うところがあるが、医師会ではどうお考えですか。</p>
佐野委員	<p>利用者にとって特養より費用負担は少ないかもしれませんが、そういった意味で入りやすいが、褥瘡対応など施設の持出しとなり、また、重度の人が増えると医療サイドの負担が増えます。介護医療院が広まらない現実を重く受けとめる必要があるかもしれません。</p>
星野委員	<p>説明の中で「未達成」のものがありましたが、数値的なものか内容的なものか伺いたい。また、いこいの家・いきいきセンターの事業は介護予防の上で重要と考えるが、事業の広報・参加の呼びかけはどのように行っているのですか。</p>
菊川課長	<p>95%を超えたものは達成、95%を超えないものは未達成としています。</p>
芦川課長	<p>2つ目の質問についてですが、いこいの家・いきいきセンターの事業の広報は施設への掲示や関連する支援関係者への周知により行っています。地域からの発信を重視しています。</p>
出口委員	<p>介護離職に関しては介護者が介護保険を活用しながら離職を防ぐよう、介護支援専門員連絡会としても早い時点で関わっていく必要があると考えます。</p>

(3) 令和7年度川崎市高齢者実態調査の結果について

会長	<p>現段階では概要のお知らせであり、5月には詳細の調査結果を示す予定です。</p>
----	--

星野委員	在宅サービスを利用しない理由として、一人暮らしの人の38%が「家族の介護」を挙げている。アンケート結果に矛盾を感じるが、ご説明いただきたい。
菊川課長	調査中の段階で詳細をお伝えすることはできませんが、給付の実状を確認したところ、月単位でのデータではあるが、要支援認定を受けた人の2割弱が利用していない、要介護認定を受けた人の介護度が低くなるほど利用率が増えるとの結果が出ています。サービスを受けているが認識がないといった方の回答が要因の一つと考えられます。
片山委員	在宅サービスを受けない理由として、家族の介護を挙げている独居の人がいるのは、通いの家族介護が増えているためであると感じます。

(4) 第10期川崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の検討体制等について

会長	認知症対策は予防や症状回復に触れていない。海外では薬物療法からの転換の方向性にある。症状の改善・軽減に根本的に重点を置く必要があると考えます。
水谷委員	認知症予防のためには65歳を超えても高齢者として働き続けることができる仕組み作りが重要と考えます。

(5) その他 (川崎市の介護保険の実態等)

	質疑応答なし
--	--------